

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言 / 2021 年度定時社員総会のご案内…P1 第 3 回 景況調査の結果について … P2・P3
 チャレンジ企業のご紹介 … P4 リモート会議システムのご紹介 (続編) … P5
 2021 年度第 1 回理事会の開催結果 / 各ブロック会議の開催結果 … P6
 2021 年度 駆動用 HV バッテリー・セレナ C26 ジェネレーター共同出荷事業 /
 4 月新車販売・使用済自動車発生台数 … P7
 鉄スクラップ最新情報 … P8 行事予定・お知らせ / 編集後記 … P9

vol. 147

2021 年度定時社員総会のご案内

01

2021 年度定時社員総会は書面議決での開催となりました。

本年度の定時社員総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、昨年度と同様に、一般社団法人および一般財団法人に関する法律第 58 条第 1 項に基づき、書面議決の方法を取ることにいたしました。

また、例年開催しておりました会員交流会、懇親会につきましても、全国からのご参加される会員の皆様やご参加者様の安全を第一に考え、昨年度と同様、中止とさせていただくこととなりました。

・ 議案等の詳細については、以下のリンク先をご参照ください↓

<http://www.elv.or.jp/media/20/20210513-syainnsoukai..pdf>

今自動車に関わる業界は、大きな変革期を迎えていると言われており、加えて、コロナ禍のため先行きが不透明な状況にあるなか、昨年度に続いて、本年度も皆様とお会いできないこととなり、当機構事務局としても非常に残念でなりません。

日本自動車リサイクル機構は、国、関係団体との窓口として情報発信や橋渡しなど、役員一丸となって取り組んで参るとともに、会員の皆様と一歩ずつ前に進んで行き、この難局を乗り越えていけたらと思っております。そして、また皆様とお会いできる日を楽しみにお待ちしております。

引き続き、会員皆様のご理解と変わらぬご支援をお願い申し上げますとともに、関係者皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

巻頭言

先月号では Zoom の契約方法についてご紹介しました。コロナ禍が始まった当初は「ハウリングして聞こえづらい」「通信がすぐ途切れる」「セキュリティの問題がある」等々言われていましたが、その後、Zoom 本体だけでなく、カメラ・マイク等の周辺機器も急速に進化し、ミーティングツール・営業ツールとして無くてはならない存在となりました。

コロナが終息しても当たり前のように活用されていくのではないのでしょうか。

今月号ではホスト（会議の主催者）が参加者へ URL を周知する方法が中心ですが、反響が良ければ先進的な使用方法についてもご紹介していく予定です。

〈広報部会 小宮山 敬仁〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 永田則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004

東京都港区新橋3丁目2番2号

TEL: 03-3519-5181

FAX: 03-3597-5171

MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp

H P: <http://www.elv.or.jp/>

第3回 業界景況調査の結果について

集計・分析：東京都市大学環境学部 准教授 木村眞実

02

一般社団法人 日本自動車リサイクル機構 第3回 景況調査報告 2021年1～3月期（概要版）

前年同期比で経常利益はかなり改善 価格競争の激化は変わらず

経済・経営環境が変化するなかで、本調査結果が企業経営の羅針盤となればと考える。今後も、ご回答への協力を頂ければ幸いです。なお、本文中の「△」はマイナスを意味する。

【調査要領】

- ①調査時：2021年4月1日～4月15日
 - ②対象企業：日本自動車リサイクル機構会員企業
 - ③調査の方法：FAX・Webの送受信による自計記入を求めた
 - ④回答企業数：469社のうち130社（27.7%）から回答を得た（うち、有効回答数127）
 - ⑤平均従業員数：役員を含む正規従業員数26.2人（前回26.9人）
派遣社員・臨時・パート・アルバイトの数5.9人（前回8.4人）
- ※DI値（DI：Diffusion Index）「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたもの

■事務局より

次回2021年4～6月期の調査につきましては、2021年6月16日（水）から6月30日（水）で予定しております。皆様、引き続きご協力の程お願いいたします。

また、今回の調査結果の詳細については、以下の「第3回景況調査報告 2021年1月～3月期報告書」をご参照ください。

報告書版はこちら→ <https://www.elv.or.jp/media/20/20210526-keikyo3.pdf>

(1) 概況（業況判断・売上高・経常利益・資金繰り）

2021年1-3月期の、業況判断、売上高、経常利益、および資金繰りについて、前年同期（2020年1月～3月）との比較が図1から図4である。回答者が「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたDI値は、業況判断が17.3（前回△12）、売上高が25.2（前回△9）、経常利益が29.1（前回△3）、および資金繰りが18.9（前回ゼロ）であった。

図1 前年同期と比べた業況判断：DI値17.3

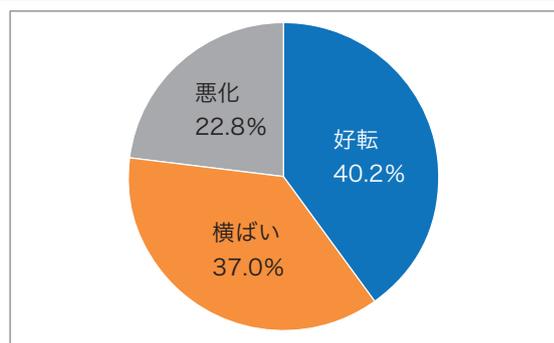


図2 前年同期と比べた売上高：DI値25.2

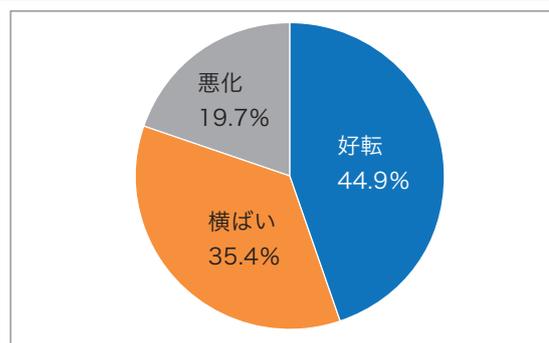


図3 前年同期と比べた経常利益：DI値29.1

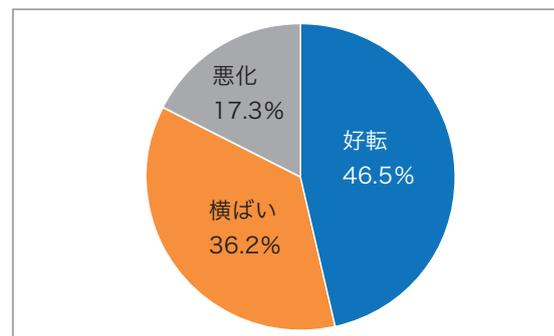
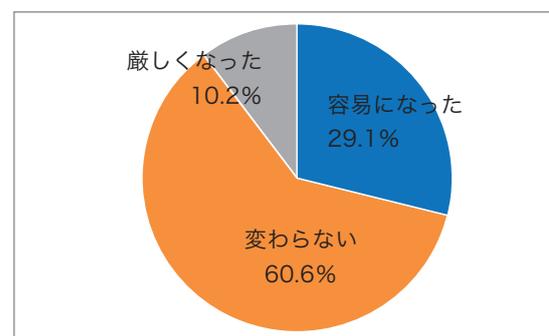


図4 前年同期と比べた資金繰り：DI値18.9



(2) 金融機関の姿勢変化の有無と内容

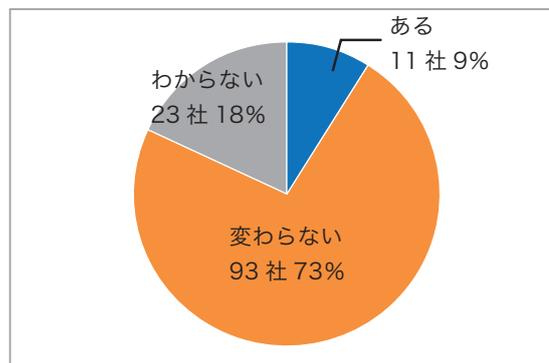
金融機関の姿勢変化の有無について、「ある」が11社・9%（前回14社・11%）であり、「変わらない」が93社・73%（前回89社・68%）であった（図5参照）。

さらに、姿勢変化の具体的な内容を複数回答可で質問したところ、貸付攻勢が10社（前回10社）、出資金要請が1社（前回ゼロ）、経営指針（経営理念）の重視が2社（前回1）であった（表1参照）。

表1 金融機関の姿勢変化の内容（複数回答可）

| | |
|-----------------------|-----|
| 貸付攻勢 | 10社 |
| 出資金要請 | 1社 |
| 経営指針（経営理念）を重視するようになった | 2社 |

図5 金融機関の姿勢変化



(3) 経営課題と取り組み等

① 経営課題

経営上の課題として深刻なものを上位3つまで選択するという問いに対する回答は、価格競争の激化（74社・22%）、仕入れ価格の上昇（63社・18.9%）、従業員の不足（49社・14.7%）、が上位であった（図6参照）。

② 現在の取り組み

現在取り組んでいることを上位3つまで回答するという問いに対しては、新規顧客の開拓（49社・12.8%）、人材育成（46社・12%）、既存顧客管理の強化（45社・11.7%）、が上位であった（図7参照）。

図6 経営上の課題（上位3つまでの複数回答）

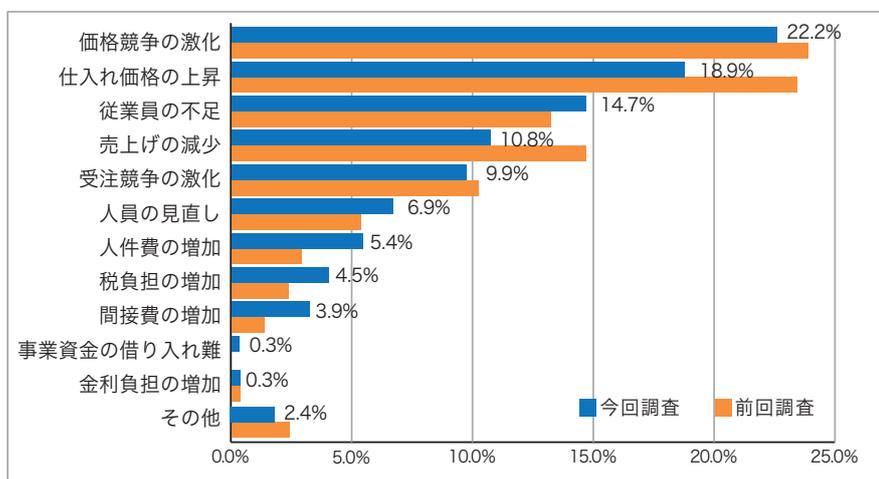
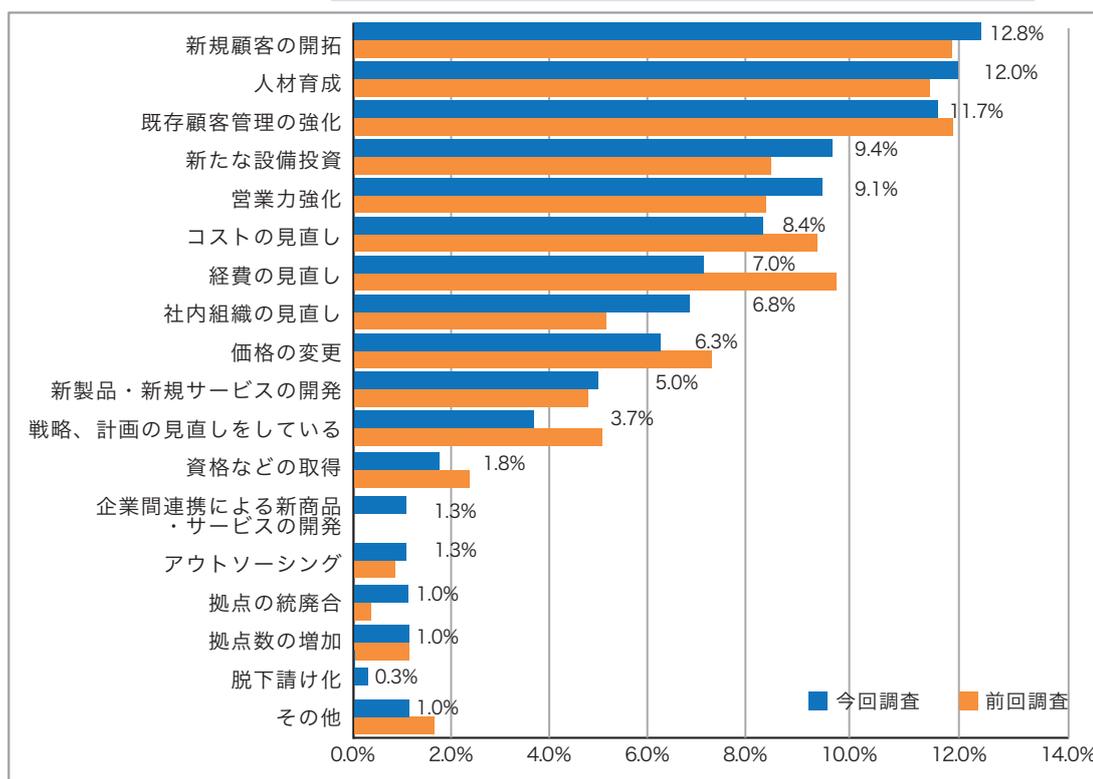


図7 現在取り組んでいること（上位3つまでの複数回答）



SDGs の 17 項目の実現やサステナブル (Sustainable) な社会 (持続可能な社会) の実現に向けて世の中が動き出しています。それは、地球の環境を壊さず、資源も使いすぎず、未来の世代も美しい地球で平和に豊かに、ずっと生活をし続けていける社会のことです。この様な循環型社会の到来は、私達の業界にとって更に活躍出来る場の到来です。今まで処分していた物に新たな価値を見出しているチャレンジ企業を紹介致します。

今回、我々にとって大変身近な解体時に発生するエアバッグの生地やシートベルトを利用し、本格的に商品化・ビジネス化を図ろうとされているリベレテキスタイル合同会社の代表取締役・長谷川泰聖氏をインタビューしました。

長谷川氏は、愛知県で毛織物の企画や販売に携わり 30 年、2019 年の 3 年前に生地販売業として独立されました。コロナ禍、アパレル関係は先行き不透明であったので「何か新しい事に挑戦したい」と考えていたところにタイミングよく、2021 年 3 月にお客様より「廃棄するエアバッグの生地が欲しい」と依頼があったそうです。そして、この数か月、豊田メタルさんや自動車再資源化協力機構さんなど数社を尋ね、今回の紹介を経て我々の日本自動車リサイクル機構へとたどり着いたとのことでした。

現在は、運転席のエアバッグを中心に集めており、それを一旦障害者施設に出して糸を解いてもらい、再度黒に染めたり、柄に染めたりしています。

今後の展開としては、欧米のブランドへの売り込みやアウトドアショップ系への販売を予定しているそうです。その他、ドメスティックブランド系にも進出したいと熱意を語っておられました。

一時的なブームとしてのエコバッグ製作ではなく、継続できるビジネス展開を考えており、生地としての展開や商品制作もしていくとのこと、鞆 A B は中国で生産したもの、小物 A B は日本製の事です。

廃エアバッグの回収の仕方としては、段ボールに詰めて送ってもらうこともあるようですがフレコンバックに入れて送ってもらうのがコスト的にも有難いとの事です。(写真) 必要枚数や買い取り価格等の詳しいお話は、地域差もありますので、ご興味のある方は

「リベレテキスタイル合同会社 代表 長谷川様」まで直接ご連絡してください。

〒496-0005

愛知県津島市神守町字中ノ折 50 番地

リベレテキスタイル合同会社

携帯 090-4083-7672

E-mail : libelle_textile@icloud.com



【現在集めている運転席側エアバック】



【エアバック解体作業】



【染めた生地 A】



【染めた生地 B】



【小物 A】



【小物 B】



【フレコンバック】



【鞆 A】



【鞆 B】

リモート会議を開催する方法のご紹介

先月号では Zoom の契約方法についてご紹介しました。
今回は自分がホスト（主催者）になって参加者を募る方法をご紹介します。

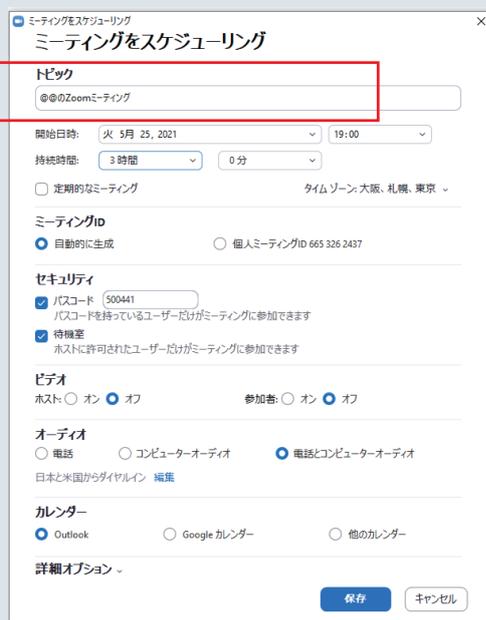
1

Zoom のアイコンをクリックすると下図の画面になり、左下の【スケジュール】をクリックします。



2

次に以下の画面で設定作業を行ないます。
【トピック】でミーティングのタイトルを入力します。このタイトルは忘備録として活用できます。（後述）
【セキュリティ】でパスコードに マークを付けると参加者が入室する際に、そのパスコードの入力が求められます。
【ビデオ】のオン・オフの選択はミーティングが始まってからでも変えられますので、この時点ではどちらを選択しても問題ありません。
最後に右下の【保存】ボタンを押します。



3

以下の画面が表示されますので、「Zoom ミーティングに参加する」の下に表示されている URL・ミーティング ID・パスコードをコピーして、他の参加者にお伝えください。



4

無事、スケジュールの設定が終わると、下図右下のようにミーティングの名称・開始時間が表示されます。



■機構の活動で Zoom を使ってみよう

各ブロック等の活動につきまちは、事務局が持っているアカウントでサポートさせていただくことも可能です。前号のご案内の後、ある支部の会議で早速お試しいただきました。「試しにリモート会議を開催してみたい！」などございましたら、是非、機構事務局までご連絡ください。

2021 年度第 1 回理事会の開催結果

05

5月13日に「2021年度第1回理事会」がリモート会議にて開催されました。議題の1つである「今年度の事業計画案」については、出席された皆様からご意見やご質問等が数多くございました。今年度の事業計画案として主に以下の6点を実施していくこととしております。

【理事会の様子】

- ① 組織の活性化、会員増強活動
- ② 自動車リサイクル士制度
- ③ 自動車リサイクル法関連活動
- ④ 資源循環への取り組み
- ⑤ 自動車リサイクル高度化財団助成事業の取り組み
- ⑥ 優良事業者制度創設に向けた取り組み



特に①については活発にご意見をいただきました。昨年度に導入した「リモート会議」を活用して各種事業活動を継続、定着させることに加え、支部活動等へ利用を拡大することで、組織の活性化を図る内容となっております。リモート会議では場所の確保や移動時間が無いことから、ご参加いただく方の間口を大きく広げられることがメリットであります。一例として、当機構のリモート会議に会員の方々に直接ご出席していただくことで、本部からの活動報告などを直接発信でき、また、直接ご意見をいただけるため、組織の活性化につなげていくことを検討しております。

このような状況であるからこそ、より皆様とのコミュニケーションを図ることが大事であり、そのための手段としてリモート会議を更に活用していくことといたしました。今後、機構で行っている様々な事業の内容について、より会員の皆様に発信できるように、様々な方法を検討しております。

各ブロック会議の開催結果

06

中国・四国ブロック会議の開催結果

5月10日にWEB会議で開催されました。機構本部からは酒井代表理事、木内副代表理事にもご参加いただき、オブザーバー参加の方を含め、計13名での会議となりました。今回は、解体業界の「現在」と「未来」について、活発な意見交換が行われた会議となりました。

各支部からの現況報告のなかで共通していたのが、「鉄などの素材価格は高騰している反面、在庫台数は伸び悩んでいる」ということでした。また、将来、電気自動車が普及してくれば解体業界の役割も変わってくることが考えられ、電気自動車のモーター等にも、業界として新たな役割が出来たらいいという意見がありました。

また、岡山支部では、解体業者以外が部品取りをしたら法律違反である旨の案内文を作成することで、解体業者以外の解体行為の違法性を周知する取組みを行っているとのことでした。

関東ブロック会議の開催結果

5月13日にWEB会議で開催され、機構本部からは酒井代表、石井副代表、木内副代表にご参加いただき、オブザーバー参加の方を含め計16名での会議となりました。

機構がどんな活動や取り組みをしているのか、まだまだ分からない方もいるため、昨年度に作成した事例集(Vol.145のP6をご参照)などの事業結果をアピールし、活動の見える化をすることが大事であるという意見がありました。また、素材価格が高騰した分の利益がある一方、中古車価格の高騰、在庫台数の減少という状況であるとの情報が各支部から多く寄せられました。今後、素材価格が反転したときにどのように戦っていくかを今考える必要があるという意見をもって閉会となりました。

2021 年度駆動用HVバッテリー・セレナ C26 ジェネレーター共同出荷事業 4 月出荷状況と下期累計

07

【2021 年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 4 月出荷状況】

4 月出荷数 単位：個

| 参加会社数 (社) | プリウス 20 | プリウス 30 | プリウスα | レクサス CT200H | アクア /ヴィッツ | カローラアクシオ /フィールダー | レクサス GS450H | クラウン HV GWS204 |
|-------------------|---------------------|---------|-------------------|---------------------|--------------|---------------------|----------------|-------------------|
| 25 | 27 | 77 | 2 | 0 | 61 | 1 | 0 | 0 |
| クラウン HV AWS210 | SAI/ レクサス HS250H | カムリ HV | 日産デュトロ /ブルーリボン | ノア/ヴィクシー /エスファイア | シエンタ HV | プリウス 50 | 不良品 A-C | 合 計 |
| 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 175 |

□2020 年度の結果・2021 年度事業説明資料はこちら→ <http://elv.or.jp/index.php?itemid=1740>

【2021 年度 セレナ C26 ジェネレーター共同出荷事業 4 月出荷状況】

4 月出荷数 単位：個

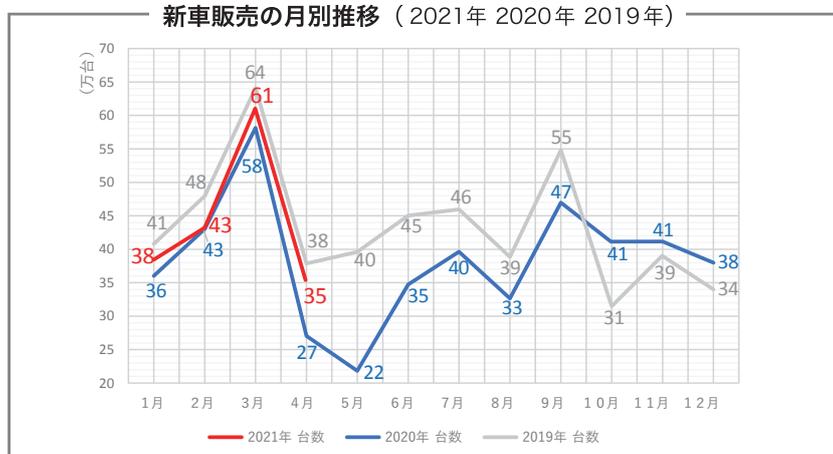
| 参加会社数 (社) | 北海道 ブロック | 東北 ブロック | 関東 ブロック | 中部・北陸 ブロック | 近畿 ブロック | 中国・四国 ブロック | 九州 ブロック | 沖縄 ブロック | 合 計 |
|--------------|-------------|------------|------------|---------------|------------|---------------|------------|------------|-----|
| 9 | 12 | 34 | 1 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 53 |

□2021 年度事業説明資料はこちら→ <http://elv.or.jp/index.php?itemid=1742>

4 月新車販売・使用済自動車発生台数

08

■2021 年 4 月度 新車販売台数 349,894 台 前年同月比 129.4%

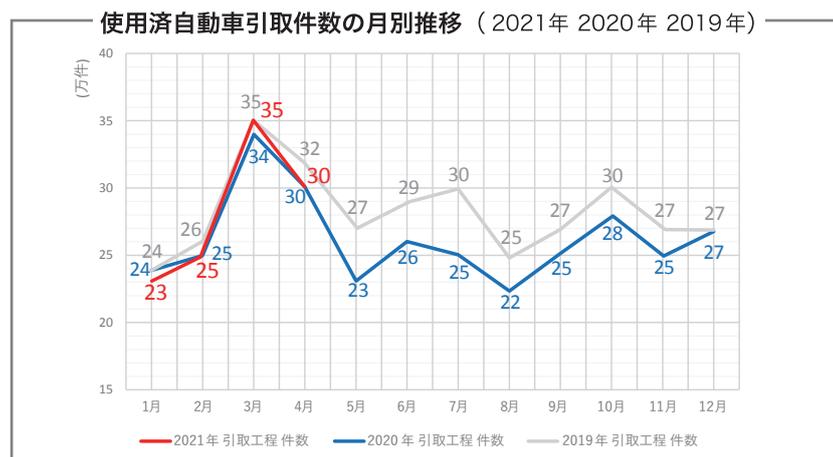


過去の/new車販売台数推移

| 年累計 | 台 数 | 前年比(%) |
|-----------------|-----------|--------|
| 2021年 (4月まで) | 1,779,637 | 108.4 |
| 2020年 | 4,598,615 | 88.5 |
| 2019年 | 5,195,216 | 98.5 |
| 2018年 | 5,272,067 | 100.7 |
| 2017年 | 5,234,165 | 105.3 |

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2021 年 3 月度 使用済自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況



| 引取件数 |
|-------------------------|
| 303,265 件 (前年同月比 99.5%) |
| フロン回収工程 |
| 277,904 件 (前年同月比 99.3%) |
| 解体工程 |
| 321,331 件 (前年同月比 99.8%) |

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

5月第4週（18日）の鉄スクラップ動向



5月18日の国内スクラップ炉前実勢価格（中心値）

| | | H2 | 気配 |
|-----|-----|---------------|----|
| 関東 | 北関東 | 47,000～49,500 | 続伸 |
| | 南関東 | 47,000～49,500 | 続伸 |
| | 浜値 | 50,000～51,200 | 続伸 |
| 名古屋 | | 49,000～50,000 | 続伸 |
| 関西 | 大阪 | 48,000～49,000 | 続伸 |
| | 姫路 | 48,500～49,500 | 続伸 |

国内市場 市中に強い先高観、堅調な推移続く

国内市場の鉄スクラップ市況は、市中の先高観が強く、市中スクラップの発生・荷動きも低調な状態にあるため、堅調な推移が続いている。また、海外・輸出市場の鉄スクラップ相場の強さや内外の鋼材相場が堅調に推移していることも、鉄スクラップ相場を押し上げる材料となっている。国内電炉各社は5月第3週末、鉄スクラップ購入価格を値上げし、国内相場は続伸した。しかし、その後も電炉入荷にバラつきが生じており、5月第4週に入り追加値上げを実施する電炉筋も出ている。また、入荷低調なのは湾岸商社・シッパー筋も同様。両者とも引き合いを緩められない環境だ。

5月第3週末(15日)時点のH2炉前総合価格(本紙調べ)は、関東が1トあたり47,800円、中部が48,000円、関西が48,500円だった。11日の関東鉄源テnderのH2平均落札価格の48,833円、17日の関西鉄連テnderの49,148円に迫る勢いだが、電炉安値筋を中心に上げ余地が残る状況だ。また、関東市場ではH2浜値が5万円中心へと続伸しており、15日から特級購入価格を5万円に引き上げた東京製鉄・田原工場とともに国内相場を牽引している。市中問屋筋や発生元は、急伸する相場展開に警戒感を持ちつつも、相場動向の様子見しながら出荷するタイミングを図っている状況だ。

【関東地区】 電炉間で追加値上げ広がる、実勢買値の引き上げも

関東電炉の間に、5月15～17日にかけて鉄スクラップ購入価格の追加値上げが広がった。海外・輸出相場の続伸を背景に浜値が先行して上伸しているため、電炉筋が引き合いを強め、それぞれ追加値上げを実施した。また建値の値上げだけでなく、実勢買値を引き上げる動きも出ている。5月18日時点のH2炉前実勢価格は47,000～48,000円中心、高値49,000～49,500円。H2浜値は50,000円中心で、高値は51,000～51,200円も聞かれる。

【東海地区】 東鉄・田原および域内電炉が値上げ、品薄感が顕著

域内では東京製鉄・田原工場が5月11日から一律2,000円、12日から同3,000円、15日から同1,000円と断続的に購入価格を引き上げた。特級は5万円に乗り、同社拠点内で最高値。他の域内電炉各社も歩調を合わせる形で5月第3週にかけて3回、計6,000円がたの値上がりを実施した。また高炉メーカーや湾岸集荷筋の引き合いも続き、市中の品薄感が顕著になっている。5月18日時点のH2炉前実勢価格は49,000～50,000円中心。

【関西地区】 アジア向けは停滞感も域内は堅調ムード持続

大阪地区の鉄スクラップ市況は堅調ムードが持続している。アジア向け輸出商談は停滞感を強める動きにあるが、域内電炉の入荷不安は残り、強含みの見方が多い。ここまでの内外市場の急騰をもたらした中国では過熱相場の抑制に動き、これに合わせて5月第3週末に鋼材や鉄鉱石、鉄スクラップ相場は値下げへ転じている。5月18日時点のH2炉前実勢価格は、大阪地区が48,000～49,000円中心。姫路地区が48,500～49,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、5月18日午前時点のもの)

— 6月の主な行事予定 —

■ 6月8日 (火)

- ・ J-FAR (事例集) 定例会
- ・ 第3回 広報部会

■ 6月16日 (水) ~ 30日 (水)

- ・ 日本自動車リサイクル機構 第4回景況調査

※急遽、日程の変更・延期の場合がございます。

お知らせ

日本自動車工業会公式ブログに「カーボンニュートラルの基礎知識」が掲載されました！

日本自動車工業会 (JAMA) の公式ブログ内に、カーボンニュートラルについての基礎知識を解説したページが掲載されました。

イラストや図を多く用いており、データや情報を視覚的に分かりやすく解説されております。「言葉は聞いたことがあるけど、実際どんな内容なの?」「なぜカーボンニュートラルが必要なのか? 私たちの生活にどんな影響が? 解決策は?」などの理解を深めることができる内容となっております。是非、ご覧ください!

こちらをクリック → <https://blog.jama.or.jp/?p=163> (JAMA 公式ブログ)

編集後記

昨年に引き続き今年度も機構の定時社員総会は書面決議という方法になりました。「来年こそは」と昨年思ったものですが、残念ながら思いは叶わずでした。

機構の総会のみならず、この時期に行われる多くの総会や会議は書面もしくはリモートという形をとっています。いまだコロナ禍が沈静されていない中ではやむを得ない措置でしょう。しかしながら人間は環境に慣れる性質があるようで、昨年こそ書面決議に戸惑いましたが、今年はずんわりと受け入れられた感があります。リモート会議にしてもモニター越しの議論がいまでは抵抗なくなされています。それどころか、わざわざ出掛けることなく全国の仲間と会話ができる便利さに、つい「これは楽だなあ」と感じてしまう自分がいます。いけない、いけない。人間は、楽と得を覚えてしまうと元に戻れなくなってしまい、墮落への道を進んでしまいます。何事も程度が肝心です。そういった意味で酒井代表が「コロナ禍が終わっても三回に一度は顔を合わせ議論したいものだ」と意向を示したことは組織運営上、素晴らしい判断と思います

(広報部会長 永田 則男)